

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおりグリーンローン・フレームワーク評価結果を公表します。

株式会社フジマック

グリーンローン・フレームワーク

新規

借入人	株式会社フジマック(証券コード:5965)
評価対象	グリーンローン・フレームワーク

評価の概要

▶▶▶1. 株式会社フジマックの概要

株式会社フジマックは、業務用厨房機器の製造・販売および保守管理を行う総合厨房企業である。1950 年に富士厨房設備株式会社として創業し、1990 年に現社名へ変更した。フジマックグループは、同社を中核に 21 社の子会社で構成され、国内では株式会社フジマックネオが製造部門を担い、海外では中国・ベトナムに生産拠点を設けている。営業拠点は日本国内に加え、アジアを中心に海外 13 拠点を展開し、顧客の海外出店を支援している。

▶▶▶2. フジマックの ESG 経営及び脱炭素に向けた取り組み

フジマックは、創業時に掲げた社是「会社企業の根本理念は、社会に貢献し一般大衆より愛され親しまれなければならない。よって富士厨房社員はこの必須条件を心に体し、毎日の業務に邁進せよ」を礎に、ESG 経営を推進している。2022 年 2 月の取締役会にてサステナビリティ基本方針、サステナビリティ推進体制、取り組み目標が決議され、実現に向けた様々な取り組みが E（環境）、S（社会）、G（ガバナンス）それぞれの側面で実施されている。

環境面における具体的な取り組み目標として、2028年までに Scope1 + 2 の GHG 排出量を 2023 年度比 10%削減を掲げている。目標実現のため、フジマックは、製造工場や輸送部門での省エネルギー化、脱炭素化を進め、主力製品である冷機器では、地球温暖化防止のため、発泡材に続き冷凍サイクルでの低 GWP 冷媒導入に取り組むと同時に、エネルギー効率の高い製品の開発に注力している。

サステナビリティ活動については、サステナビリティ推進委員会を中心に推進される体制がとられている。委員会は年に一回開催され、社長、各部門長、総務部が参加する。また目標の設定、進捗確認について、外部コンサル会社の助言を受けながら活動を進めている。

▶▶▶3. グリーンローン・フレームワークについて

今般の評価対象は、フジマックがグリーンローンにより調達する資金を、環境改善効果を有する使途に限定するために定めたグリーンローン・フレームワーク（本フレームワーク）である。JCR では、本フレームワークが「グリーンローン原則¹」及び「グリーンローンガイドライン²」に適合しているか否かの評価を行う。これらは原則又はガイドラインであって法的な裏付けを持つ規制ではないが、現時点において国内外の統一された基準として当該原則及びガイドラインを参照して JCR では評価を行う。

本フレームワークにおける資金使途は、適格クライテリアに適合するグリーンビルディング及び省エネルギー設備であり、フジマックの環境面の取り組み目標に寄与するものである。また、適格プロジェクトの購入に際しては、環境や社会に対する負の影響を考慮し、適切な対応を行うこととしている。以上より、JCR は本フレームワークにおける資金使途について、環境改善効果が期待されるものであると評価している。

資金使途の対象となるプロジェクトの選定に関しては、経営陣が関与するようプロセスが構築されている。資金管理については適切に管理されることが予定され、担当役員による内部統制が働いている。レポーティングについては、資金充当状況及び環境改善効果に関する項目を適切に定め、年次で貸付人に対して開示することとしている。以上より、JCR はフジマックにおける管理運営体制が確立されており、透明性を有すると評価している。

この結果、本フレームワークについて、JCR グリーンファイナンス評価手法に基づき、「グリーン性評価（資金使途）」を“g1(F)”、「管理・運営・透明性評価」を“m1(F)”とし、「JCR グリーンローン・フレームワーク評価」を“Green 1(F)”とした。また、本フレームワークは「グリーンローン原則」及び「グリーンローンガイドライン」において求められる項目について基準を満たしていると JCR は評価している。

¹ Loan Market Association (LMA)、Asia Pacific Loan Market Association(APLMA)、Loan Syndications and Trading Association (LSTA) "Green Loan Principles 2025"
<https://www.lsta.org/content/green-loan-principles/>

² 環境省 「グリーンローンガイドライン 2024 年版」
<https://www.env.go.jp/content/000062348.pdf>

目次

■評価フェーズ1：グリーン性評価

I. 調達資金の使途

【評価の視点】

【評価対象の現状と JCR の評価】

1. プロジェクトの環境改善効果について
2. 環境・社会に対する負の影響について
3. SDGs との整合性について

■評価フェーズ2：管理・運営・透明性評価

I. 資金使途の選定基準とそのプロセス

【評価の視点】

【評価対象の現状と JCR の評価】

1. 目標
2. 選定基準
3. プロセス

II. 調達資金の管理

【評価の視点】

【評価対象の現状と JCR の評価】

III. レポーティング

【評価の視点】

【評価対象の現状と JCR の評価】

IV. 組織のサステナビリティへの取り組み

【評価の視点】

【評価対象の現状と JCR の評価】

■評価フェーズ3：評価結果（結論）

評価フェーズ 1: グリーン性評価

g1(F)

I. 調達資金の使途

【評価の視点】

本項では、最初に、調達資金が明確な環境改善効果をもたらすグリーンプロジェクトに充当されているかを確認する。次に、資金使途において環境・社会への負の影響が想定される場合に、その影響について社内の専門部署又は外部の第三者機関によって十分に検討され、必要な回避策・緩和策が取られているかについて確認する。最後に、持続可能な開発目標（SDGs）との整合性を確認する。

▶▶▶ 評価対象の現状と JCR の評価

フジマックが本フレームワークで資金使途としたグリーンビルディングと省エネルギー設備にかかる取得資金は、CO2削減効果を有しており、高い環境改善効果が期待される。

資金使途にかかる本フレームワーク（抜粋）

調達資金の使途

本フレームワークに基づきグリーンローンによって当社が調達する資金は、当社子会社であるフジマックネオを通じて以下の適格クライテリアに該当するプロジェクトに対する新規投資に充当される予定です。

プロジェクト区分	適格クライテリア
グリーンビルディング	・以下のいずれかの建物認証を取得済、もしくは将来取得、または更新予定の建物の建設ならびに物件取得にかかる費用 ● ZEB（nearly、ready、oriented を含む） ● BELS 評価：以下に定めるランク －令和 6 年度基準： - 非住宅：レベル 4 以上
省エネルギー	・ ZEB 認証(ZEB Oriented 相当以上)と同水準の BEI(省エネルギー性能指標)※を有する物件の開発又は取得に係る支出 ※BEI：0.7 以下 ・工場の省エネルギー化に係る費用 ● 高効率機器の導入・更新（従来比 30%程度の省エネルギー性能があるもの）

【本フレームワークに対する JCR の評価】

1. プロジェクトの環境改善効果について

資金使途 1：グリーンビルディング

本フレームワークにおける資金使途の対象は、適格クライテリアに適合するグリーンビルディングである。本資金使途は、「グリーンローン原則」における「地域、国または国際的に環境性能のために認知された標準や認証を受けたグリーンビルディング」、「グリーンローンガイドライン」に例示されている資金使途のうち「グリーンビルディングに関する事業」に該当する。

フジマックはグリーンビルディングにおける適格クライテリアについて、BELS に係る所定のランクの認証を取得済みもしくは将来取得、または更新予定の建築物を資金使途の対象としている。

各認証の詳細は後述のとおりであるが、いずれも地域、国又は国際的に認知された環境認証である。

ZEB (Net Zero Energy Building)

ZEB (Net Zero Energy Building) は、建築物における一次エネルギー消費量を、建築物・設備の省エネ性能の向上、エネルギーの面的利用、オンサイトでの再生可能エネルギーの活用等により削減し、正味でゼロにすることを目指した建築物である。ZEB には、①ZEB (省エネ (50%以上) + 創エネで 100%以上の一次エネルギー消費量削減を実現している建物)、②Nearly ZEB (省エネ (50%以上) + 創エネで 75%以上の一次エネルギー消費量削減を実現している建物)、③ZEB Ready (50%以上の一次エネルギー消費量削減を実現している建物)、④ZEB Oriented (延べ面積 10,000 m²以上で、事務所・学校・工場等の場合は 40%以上、ホテル・病院・百貨店・飲食店・集会所等の場合は 30%以上の一次エネルギー消費量削減を実現している建物) の 4 段階があり、いずれの省エネ性能も BELS のレベル 4 以上に相当する。

以上より、本資金使途は環境改善効果を有すると JCR は評価している。

BELS (建築物省エネルギー性能表示制度)

BELS とは、建築物省エネルギー性能表示制度の英語名称 (Building-Housing Energy-efficiency Labeling System) の頭文字をとったものであり、新築・既存の建築物において、省エネ性能を第三者評価機関が評価し認定する制度である。外皮性能及び一次エネルギー消費量が評価対象となり、高評価のためには優れた省エネ性能を有していることが求められる。評価結果は BEI (Building Energy Index) によってレベル分けされる。BEI は、設計一次エネルギー消費量を分子、基準一次エネルギー消費量を分母とする、基準値に比した省エネ性能を測る尺度である。従来の基準 (平成 28 年度基準) では 1 つ星から 5 つ星の 5 段階で評価されており、2 つ星は省エネ基準を満たしている。

改正建築物省エネ法の 2024 年 4 月 1 日施行により、2,000 m²以上の非住宅大規模建築物を対象の省エネ基準が厳格化された。施行後の省エネ基準は建物用途によって異なり、物流施設を含む工場等では 25%以上削減、事務所・学校・ホテル・百貨店等では 20%以上となっている。同改正に基づき、建築物の販売・賃貸時の省エネ性能表示制度が 2024 年 4 月に強化され、BELS に新基準 (令和 6 年度基準) が導入された。新基準においては、再生可能エネルギー設備がある住宅及び非住宅に対しては、レベル 6 (消費エネルギー削減率が 50%以上) ~レベル 0 (消費エネルギー削減率が 0%

未満)の7段階で評価され、再生可能エネルギー設備がない住宅に対しては、レベル4(消費エネルギー削減率が30%以上)～レベル0(消費エネルギー削減率が0%未満)の5段階で評価される仕組みとなっている。新基準におけるBELSのレベル4(消費エネルギー削減率が30%以上40%未満)以上は、全ての非住宅建築物の省エネ基準を満たす建築物を対象として付与されており、一部の用途については誘導基準になっている。住宅については従来の基準と変わらず、消費エネルギー削減率0%以上が省エネ基準、20%以上が誘導基準となっている。

なお、フジマックは、本フレームワークを利用し、ZEB Readyを取得した生産工場を取得することを計画している。当該物件の概要を以下に示す。

図表1 フジマック新規工場概要³

所在	福岡県古賀市
建物構造	鉄骨造4階建
延床面積	4850.64 m ²
環境認証	ZEB Ready 取得
主要設備	自動倉庫、タレットパンチプレス

資金使途2：省エネルギー

資金使途2は、①ZEB認証(ZEB Oriented 相当以上)と同水準のBEI(省エネルギー性能指標)⁴である物件の開発又は取得に係る支出又は、②高効率機器の導入・更新である。本資金使途は、「グリーンローン原則」における「エネルギー効率」、「グリーンローンガイドライン」に例示されている資金使途のうち、「省エネルギーに関する事業」に該当する。

① ZEB認証(ZEB Oriented 相当以上)と同水準のBEIである物件の開発又は取得に係る支出

フジマックは本フレームワークにおける適格クライテリアについて、ZEB Oriented 相当以上であるBEIを有する物件、すなわち一次エネルギー消費量が30%以上削減の建築物を資金使途の対象としている。

② 高効率機器の導入・更新

フジマックは、自社の工場に導入・更新する設備機械の省エネルギー化を推進するため、従来品よりもエネルギー消費量が30%程度抑えられた設備の導入を進めている。具体例として、フジマックはタレットパンチプレス(タレパン)を想定している。タレパンは、厨房機器の材料となるステンレス材の穴あけ・打ち抜き・成形などを行う加工機器であり、フジマックが想定している機器は、BATであり30%程度の削減効果をもたらすことが期待される。

以上より、本資金使途は環境改善効果を有するとJCRは評価している。

³ 出典：フジマック グリーンローン・フレームワーク

⁴ BEI = 設計一次エネルギー消費量 ÷ 基準一次エネルギー消費量

設計一次エネルギー消費量：建物の設計仕様に基づいて算定した年間の一次エネルギー消費量(空調・換気・照明・給湯等)。
 基準一次エネルギー消費量：国が定める標準的な仕様での年間一次エネルギー消費量(用途・地域毎に異なる)。

2. 環境・社会に対する負の影響について

フジマックでは、資金使途の対象となるプロジェクトが環境・社会に及ぼし得る負の影響として、資金使途の対象となる物件の建設時における騒音・振動の発生、工場の稼働に伴う電気の使用、水の使用と排水による環境負荷を想定している。建設時の騒音・振動に際しては、工事関係車両の使用時間平準化や防音対策を行い近隣への影響に配慮するよう施工業者に対応してもらうことを想定している。運用時における電気の使用については、高効率設備を導入し、消費電力削減に努める。水の使用については、製造による大量の排水は想定されないものの、工場内の食堂等の施設からの排水について法令基準を遵守し、近隣河川への影響に配慮するなど、取得予定の物件に係る負の影響を確認し、必要に応じて適切な対応を行うこととしている。これにより、JCR は、フジマックが環境・社会に対する負の影響について適切に配慮していることを確認した。

3. SDGs との整合性について

ICMA の SDGs マッピングを参考にしつつ、JCR では、以下の SDGs の目標及びターゲットに貢献すると評価した。



目標 7：エネルギーをみんなに そしてクリーンに

ターゲット 7.3 2030 年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。



目標 9：産業と技術革新の基礎をつくろう

ターゲット 9.4 2030 年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。すべての国々は各国の能力に応じた取組を行う。



目標 11：住み続けられるまちづくりを

ターゲット 11.3 2030 年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。
 ターゲット 11.6 2030 年までに、大気の水質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。



目標 13：気候変動に具体的な対策を

ターゲット 13.1 すべての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応の能力を強化する。
 ターゲット 13.3 気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。

I. 資金使途の選定基準とそのプロセス

【評価の視点】

本項では、本評価対象を通じて実現しようとする目標、グリーンプロジェクトの選定基準とそのプロセスの妥当性及び一連のプロセスが適切に投資家等に開示されているか否かについて確認する。

▶▶▶ 評価対象の現状と JCR の評価

JCRは本フレームワークにおける目標、グリーンプロジェクトの選定基準、プロセスについて、経営陣が適切に関与しており、透明性も担保されていると判断している。

1. 目標

フジマックは、創業時に掲げた社は「会社企業の根本理念は、社会に貢献し一般大衆より愛され親しまれなければならない。よって富士厨房社員はこの必須条件を心に体し、毎日の業務に邁進せよ」を礎に、ESG 経営を推進している。2022 年にはサステナビリティ基本方針を掲げ、ESG の各要素におけるフジマックが進むべき方向が示されている。環境面では、「地球温暖化防止に向けた技術開発を進め、環境負荷の最小化に努めます。」と定めている。具体的な取り組みとして、製造工場や輸送部門での省エネルギー化、脱炭素化を進め、主力製品である冷機器では、地球温暖化防止のため、発泡材に続き冷凍サイクルでの低 GWP 冷媒導入に取り組むと同時に、エネルギー効率の高い製品の開発に注力している。具体的な目標として、2028 年までに Scope1 + 2 の GHG 排出量を 2023 年度比 10%削減を掲げている。

本フレームワークで資金使途の対象としているグリーンビルディングと省エネルギー設備は、環境性能の高いものであり、本フレームワークによりグリーンローンを実行することはフジマックの環境面の目標に貢献するものと JCR は評価している。

図表 2 サステナビリティ基本方針⁵

サステナビリティ基本方針

われわれは、質の高いプロフェッショナルのニーズを満たす厨房システムの提供を通じて、豊かな食文化の創造を目指しています。これを実現するために、われわれは社会から信頼される企業として、時代のニーズを鋭くキャッチしながら、常に先進的かつオリジナリティあふれる提案をしつづけ、社会の課題解決と持続的発展に貢献していくとともに、すべてのステークホルダーとの対話を尊重し、持続可能な社会の構築に積極的な役割を果たします。

- 革新的で多様な製品やサービスを通じ、社会の課題解決と持続的発展に貢献していきます。
- 従業員の健康・安全を経営の基本と考え、労働環境の向上に努めます。
- 地球温暖化防止に向けた技術開発を進め、環境負荷の最小化に努めます。
- 国際社会の一員として、国際ルール・法令を遵守するとともに腐敗防止に取り組み、公正・誠実に業務を遂行します。
- ステークホルダーとの対話を通じて、社会からの期待や要請を受けとめ、それらを実践していくことで信頼される企業を目指すとともに、適時かつ適正な情報開示を行います。

⁵ 出典：フジマック ホームページ <https://www.fujimak.co.jp/sustainability/>

2. 選定基準

JCR は、本フレームワークの適格クライテリアについて、評価フェーズ 1 で確認したとおり、高い環境改善効果を有するプロジェクトを対象としていると評価している。

3. プロセス

プロセスにかかる本フレームワーク

当社は、設備投資および採用する技術を選定する際、生産技術部が実施主体の中心となり、開発、技術、環境および管理を担当する部署が連携し、既存および類似の設備・技術との比較を通じて重要な要素を特定のうえ、選定基準を検討・決定しています。

調達資金の使途となるプロジェクトの検討および適格クライテリアの適合判断はプロジェクト責任者が行い、取締役会に報告を行います。資金調達にあたっては、経理部長が、グリーンローンによる調達資金が当該プロジェクトに相当するものであることを確認のうえ取締役会に付議し、取締役会にて承認を行います。

【本フレームワークに対する JCR の評価】

調達資金の使途となる適格プロジェクトの選定から取得には、プロジェクト責任者、経理部長により起案され取締役会より承認され実施される。これより、フジマックの経営陣が関与していることから、選定プロセスは適切に定められていると JCR は評価している。

また、これらの選定基準及びプロセスは、本評価レポートにより開示されており、貸付人に対する透明性は確保されていると考えられる。

II. 調達資金の管理

【評価の視点】

調達資金の管理方法は、資金調達者によって多種多様であることが通常想定される。本評価対象に基づき調達された資金が、確実にグリーンプロジェクトに充当されること、また、その充当状況が容易に追跡管理できるような仕組みと内部体制が整備されているか否かを確認する。

また、本評価対象により調達した資金が、早期にグリーンプロジェクトに充当される予定となっているか否か、加えて未充当資金の管理・運用方法の評価についても重視している。

▶▶▶ 評価対象の現状と JCR の評価

JCRでは、フジマックの資金管理体制が適切に構築されており、調達資金の管理方法については本評価レポートにおいて開示されるほか、貸付人に開示することから、透明性が高いと評価している。

資金管理にかかる本フレームワーク

【調達資金の充当計画】

本借入金による調達資金は設備投資の進捗に応じて払い出される予定です。未充当資金がある場合、全額が充当されるまで、現金または現金同等物にて管理します。

なお、資金使途の対象となるプロジェクトが売却などにより資金使途の対象から外れる場合、本借入金の返済について事前に貸付人と協議する予定です。

【入出金および記録媒体の管理】

当社の経理担当者は、月次で会計システムにより充当状況の確認を実施します。また、月次で会計システムにより入出金状況の確認を行い、当該入出金状況については、監査人により定期的な監査を受ける予定です。なお、これらの入出金に関する資料および監査資料については、会社規則に則った保存を予定しています。

【本フレームワークに対する JCR の評価】

グリーンローンによって調達した資金は、調達後速やかに適格クライテリアを満たすプロジェクトに充当される予定となっている。調達資金の全額が充当されるまでの間は、現金又は現金同等物にて管理される。また、調達した資金は、月次で経理担当者により内部の会計システムにて確認される。調達資金の資金管理については、内部監査室による内部監査及び監査法人による外部監査の対象となっている。グリーンローンの資金管理に関する文書等については、ローンの返済後、一定期間保存される体制が整備されている。

以上より、JCR では、フジマックの資金管理体制が適切であると評価している。

III. レポーティング

【評価の視点】

本項では、本評価対象に基づく資金調達前後での投資家等への開示体制が、詳細かつ実効性のある形で計画されているか否かを評価する。

▶▶▶ 評価対象の現状と JCR の評価

JCRでは、フジマックのレポーティングについて、資金の充当状況及び環境改善効果の両方について、投資家等に対して適切に開示される計画であると評価している。

レポーティングにかかる本フレームワーク

【資金の充当状況】

本資金調達金に係る貸付人との契約の締結から資金充当完了までの間、調達資金の充当状況（調達総額、充当額および未充当額、未充当資金の運用方法等）について、貸付人が定める書面により年次で貸付人に報告します。

なお、資金充当完了後、資金充当状況に重大な変化があった場合には、適時貸付人に報告します。

【環境改善効果】

本借入金による資金調達から完済までの間、以下の事項について、貸付人が定める書面により年次で貸付人に報告します。

- (1) プロジェクトの進捗状況
- (2) 取得した認証の種類・ランク
- (3) CO2 排出量削減効果（年間）

【本フレームワークに対する JCR の評価】

資金の充当状況に係るレポーティング

フジマックは、グリーンローンにより調達した資金の充当状況について、本フレームワークに定める内容を年次で貸付人に開示する予定である。また、調達資金の全額が充当された後に大きな資金状況の変化が生じた場合は、遅滞なく貸付人に対して報告する予定である。

環境改善効果に係るレポーティング

フジマックは、環境改善効果に関するレポーティングとして、本フレームワークに定める内容を年次で貸付人に対して開示する予定である。これらの開示項目には、CO2 削減量等の定量的指標が含まれている。以上より、JCR では、フジマックによるレポーティング体制が適切であると評価している。

IV. 組織のサステナビリティへの取り組み

【評価の視点】

本項では、資金調達者の経営陣がサステナビリティに関する問題について、経営の優先度の高い重要課題と位置づけているか、サステナビリティに関する分野を専門的に扱う部署の設置又は外部機関との連携によって、サステナブルファイナンス実行方針・プロセス、グリーンプロジェクトの選定基準などが明確に位置づけられているか、等を評価する。

▶▶▶ 評価対象の現状と JCR の評価

JCRは、フジマックがサステナビリティに関する問題を経営の重要課題と位置付け、フジマックの事業を通じ脱炭素社会の実現に向けて積極的に取り組んでいることを確認した。

フジマックは、創業時に掲げた社是「会社企業の根本理念は、社会に貢献し一般大衆より愛され親しまれなければならない。よって富士厨房社員はこの必須条件を心に体し、毎日の業務に邁進せよ」を礎に、ESG 経営を推進している。2022 年 2 月の取締役会にてサステナビリティ基本方針、サステナビリティ推進体制、取り組み目標が決議され、実現に向けた様々な取り組みが E（環境）、S（社会）、G（ガバナンス）それぞれの側面で実施されている。

環境面における具体的な取り組み目標として、2028 年までに Scope1 + 2 の GHG 排出量を 2023 年度比 10%削減を掲げている。目標実現のため、フジマックは、製造工場や輸送部門での省エネルギー化、脱炭素化を進め、主力製品である冷機器では、地球温暖化防止のため、発泡材に続き冷凍サイクルでの低 GWP 冷媒導入に取り組むと同時に、エネルギー効率の高い製品の開発に注力している。

サステナビリティ活動については、サステナビリティ推進委員会を中心に推進される体制がとられている。委員会は年に一回開催され、社長、各部門長、総務部が参加する。議題は、各部門で討議され、部門長を通じて委員会に報告をされたもののほか、全社で基本方針に沿って策定された目標の進捗などが取り上げられる。委員会では、報告内容について参加する各部門長へ指示を出すほか、取締役会への報告も行っている。また取り組み目標の設定や進捗確認に関しては、コンサル会社からの助言を受け進めている。現時点では実績はないものの、部門をまたぐ議題には分科会が設置され、各部門同様、討議された議題は委員会へ報告される体制となっている。

以上より、JCR は、フジマックがサステナビリティに関する問題を経営の重要課題と位置付けている点、サステナビリティの問題に関する会議体を有している点、専門家の知見を取り入れつつ、実務・経営の観点から取り組みを行っている点について評価している。

評価フェーズ 3: 評価結果 (結論)

Green 1(F)

本フレームワークについて、JCR グリーンファイナンス評価手法に基づき「グリーン性評価（資金使途）」を“g1(F)”、「管理・運営・透明性評価」を“m1(F)”とした。この結果、「JCR グリーンローン・フレームワーク評価」を“Green 1(F)”とした。本フレームワークは、「グリーンローン原則」及び「グリーンローンガイドライン」において求められる項目について基準を満たしていると考えられる。

		管理・運営・透明性評価				
		m1(F)	m2(F)	m3(F)	m4(F)	m5(F)
グリーン性評価	g1(F)	Green 1(F)	Green 2(F)	Green 3(F)	Green 4(F)	Green 5(F)
	g2(F)	Green 2(F)	Green 2(F)	Green 3(F)	Green 4(F)	Green 5(F)
	g3(F)	Green 3(F)	Green 3(F)	Green 4(F)	Green 5(F)	評価対象外
	g4(F)	Green 4(F)	Green 4(F)	Green 5(F)	評価対象外	評価対象外
	g5(F)	Green 5(F)	Green 5(F)	評価対象外	評価対象外	評価対象外

(担当) 菊池 理恵子 玉川 冬紀

本評価に関する重要な説明

1. JCR グリーンファイナンス・フレームワーク評価の前提・意義・限界

日本格付研究所（JCR）が付与し提供する JCR グリーンファイナンス・フレームワーク評価は、グリーンファイナンス・フレームワークで定められた方針を評価対象として、JCR の定義するグリーンプロジェクトへの適合性ならびに資金使途等にかかる管理、運営及び透明性確保の取り組みの程度に関する、JCR の現時点での総合的な意見の表明です。したがって、当該方針に基づき実施される個別債券又は借入等の資金使途の具体的な環境改善効果及び管理・運営体制・透明性評価等を行うものではなく、当該フレームワークに基づく個別債券又は個別借入につきグリーンファイナンス評価を付与する場合は、別途評価を行う必要があります。また、JCR グリーンファイナンス・フレームワーク評価は、当該フレームワークに基づき実施された個別債券又は借入等が環境に及ぼす改善効果を証明するものではなく、環境改善効果について責任を負うものではありません。グリーンファイナンス・フレームワークにより調達される資金の環境改善効果について、JCR は発行体及び/又は借入人（以下、発行体と借入人を総称して「資金調達者」という）、又は資金調達者の依頼する第三者によって定量的・定性的に測定される事項を確認しますが、原則としてこれを直接測定することはありません。なお、投資法人等で資産がすべてグリーンプロジェクトに該当する場合に限り、グリーンエクイティについても評価対象に含むことがあります。

2. 本評価を実施するうえで使用した手法

本評価を実施するうえで使用した手法は、JCR のホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「サステナブルファイナンス・ESG」に、「JCR グリーンファイナンス評価手法」として掲載しています。

3. 信用格付業にかかる行為との関係

JCR グリーンファイナンス・フレームワーク評価を付与し提供する行為は、JCR が関連業務として行うものであり、信用格付業にかかる行為とは異なります。

4. 信用格付との関係

本件評価は信用格付とは異なり、また、あらかじめ定められた信用格付を提供し、又は閲覧に供することを約束するものではありません。

5. JCR グリーンファイナンス・フレームワーク評価上の第三者性

本評価対象者と JCR との間に、利益相反を生じる可能性のある資本関係、人的関係等はありません。

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、資金調達者及び正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、又はその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、又は当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。JCR グリーンファイナンス評価は、評価の対象であるグリーンファイナンスにかかる各種のリスク（信用リスク、市場流動性リスク、価格変動リスク等）について、何ら意見を表明するものではありません。また、JCR グリーンファイナンス評価は JCR の現時点での総合的な意見の表明であって、事実の表明ではなく、リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCR グリーンファイナンス評価は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、又は撤回されることがあります。JCR グリーンファイナンス評価のデータを含め、本文書にかかる一切の権利は、JCR が保有しています。JCR グリーンファイナンス評価のデータを含め、本文書の一部又は全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■用語解説

JCR グリーンファイナンス・フレームワーク評価：グリーンファイナンス・フレームワークに基づき調達される資金が JCR の定義するグリーンプロジェクトに充当される程度ならびに当該グリーンファイナンスの資金使途等にかかる管理、運営及び透明性確保の取り組みの程度を評価したものです。評価は5段階で、上位のものから順に、Green 1(F)、Green 2(F)、Green 3(F)、Green 4(F)、Green 5(F)の評価記号を用いて表示されます。

■サステナビリティファイナンスの外部評価者としての登録状況等

- ・環境省 グリーンファイナンス外部レビュー者登録
- ・ICMA（国際資本市場協会）に外部評価者としてオブザーバー登録
- ・UNEP FI ポジティブ・インパクト金融原則 作業部会メンバー
- ・Climate Bonds Initiative Approved Verifier（気候債イニシアティブ認定検証機関）

■その他、信用格付業者としての登録状況等

- ・信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号
- ・EU Certified Credit Rating Agency
- ・NRSRO：JCR は、米国証券取引委員会定める NRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示は JCR のホームページ（<https://www.jcr.co.jp/en/>）に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル